浜田市議会議長　原田義則様

議員名　上野　茂　㊞

# 調　査　研　究　活　動　報　告　書

下記のとおり調査研究のため視察等を行ったので、その結果を報告します。

記

１．期　　間　　平成２７年5月１１日（月）～5月１２日(火)

２．視察先と内容

① 安芸高田市　　川根振興協議会の取組みについて
「行政に頼らないコミュニティづくり」
講師　　辻駒健二会長

② 門前湯治村　　神楽ドーム視察
(安芸高田市)　　説明　　山根孝浩安芸高田市政策企画課まちづくり支援係長

③ 邑南町　　誰もが幸せになれるまち－攻めと守りの定住プロジェクト
「Ａ級グルメ構想と日本一の子育て村構想について」
講師　　石橋良治邑南町長
田村哲邑南町定住促進課課長補佐
口羽正彦商工観光課課長補佐

３．参加者　　原田義則　牛尾博美　西田清久　道下文男　飛野弘二
上野茂　　野藤薫　　串崎利行　渋谷幹雄

４．調査経費　　１２，７５３　円

５．調査研究活動の概要　　別紙

浜田市議会
受付
'7.6.29

## 安芸高田市

川根振興協議会の取組みについて

- １９７２年の江の川の氾濫→自分たちがどう生きるか？
  どう変わるか？
- ２１９８人が５００人に→危機感による住民自治意識の芽生え
- 農業が基幹産業―農地を守る
- 道路整備の遅れ→同じように税金を納めているのに、何故自分たちに帰ってこないのか？　……自分たちが選んだ市長や議員のせい？
- 小学校の統合→学校がなくなると、地域の夢を語れなくなる
- １９８２年、「農地を守る会」の立ち上げ→土地改良へ－８０ha を５年で
  ⇔今から、負担金を出してまで土地に金をかけて何になる
  ⇔わしのところから、先にやってくれ
  →補助金の１８００万円は個人に配らず、法人の運営資金に－独裁者と言われた
  →個人のエゴに任せたら、何にもできない
- 地域のご縁のおかげ
- 親の世話のために、３８年前に戻ってきた
- 行政のやれることには、限度がある→行政がやることと、地域がやることの仕分け
- 道路改良―各自が１ｍ５０cm 提供草刈、道路管理は自分たちで
- 学校を、４億円かけて改修→「川根ミュージアム」
- 地域住民の声を行政がいかに取り入れるか
  →要求から提案のまちづくりへ
- 若者定住の住宅建設へ→２３戸建設
- 学校を無くさないという決意が必要
- 支所に権限と予算がないので、合併したことの難しさがある
- 就労の若者農業者→野菜果物栽培の本には、草が生えることが書いてない！
- ガソリンスタンドとストアの撤退→一戸千円(２６０戸)集めて再開
- 各戸毎に、「一日一円募金」実施―給食サービス
  →予想以上に資金が集まる
- 「もやい便」－どこからでも片道５００円
- 毎朝カーテンを開ける－元気なサイン→地域の人たちが顔を覗かせる
- 香典返し→振興会へ・宴会部長が必要
- 住民自治意識は高齢者の方が高い→みんなでお金を出す

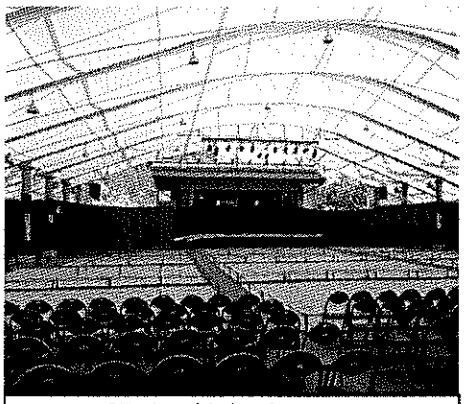
川根ミュージアムのホールで、辻駒会長から、説明を受ける

所感

川根振興協議会の辻駒会長の話を「エコミュージアム川根」で聞くのは今回で３度目、以前まちづくりの組織立ち上げのとき旭自治区へ来ていただき講演をお願いしたこともある。　地域の課題を住民と共に「自分たちで地域を守ると」言う強い意識で引っ張ってこられた。バイタリティーあふれる辻駒会長の話は何度聞いても感動する。　市街地、中山間地域を問わず多くの課題を持つ浜田市においても大いに参考になると感じた。　「自分らに出来ることは自分らの手で」活動の展開に、住民として担うべきこと、行政がすべきこと、双方連携して取り組むことがしっかりと整理され、要求型から提案型へ見習うところが多くあった。

門前湯治村視察(安芸高田市)

- 門前湯治村総事業費４０億円
- 神楽ドーム建設費８億円
  委託費一年間４０００万円
  金土日年間１５０日神楽上演
  チケット収入→社中と管理会社とで折半
  入場者一日平均５００人



テント張りの神楽ドーム
前側畳敷き―２畳の桟敷席に変化
後列椅子席

所感

「ひろしま安芸高田神楽」として、古くから伝統芸能としての神楽が伝承されてきた。その神楽の伝承ルートは出雲流神楽が石見神楽を経て、江戸期にこの地域に伝えられ、何か親近感を覚えた、常設神楽館、テント張りの神楽ドームには神楽の守り人である安芸高田２２の神楽団が交代で演じ、年間１５万人以上の人が鑑賞に来られる。

多額の事業費を使って建設された神楽ドーム、神社での神楽を見慣れた私にとって驚きだった。浜田でも構想があるが、新たな建物よりは施設を有効に活用し、浜田に合った鑑賞の場が出来るといいと思う。

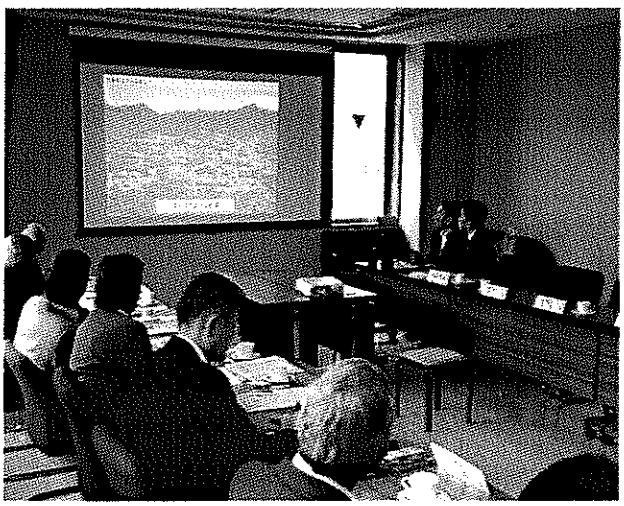
・道の駅に浜田のチラシがあった、どうしてここにあるのか不思議、今後の視察には浜田の宣伝を兼ねて、チラシ、パンフレットを持って行く。

門前湯治村の敷地内で、説明を聞く

門前湯治村入り口で記念撮影
（カメラマン渋谷）

## 邑南町

誰もが幸せになれるまち―攻めと守りの定住プロジェクト
「Ａ級グルメ構想と日本一の子育て村構想について」



石橋町長から説明
を受ける

- 邑南町の人口ー１１５００人、面積ー４２０平方キロ、世帯数ー５０００世帯、高齢化率　ー４１．９%、島根県中央部で盆地の多い地形
- 一般会計の予算規模１３０億円ー交付税５０%以上、教育費１１億円ー毎年増やしている
- まちづくりの基本理念→住民が主役ーまちづくり基本条例の制定
  周辺を大切にー２１６集落、３９自治会、自治会担当職員配置
- 自立を促す→公民館設置・職員３人体制(正規職員１名)ー地域に出かけて行く
- 合併後の一体感→ケーブルテレビの活用ー加入率９６%
- 若手職員による地域のカルテづくりー地域の課題と人口分析
- 出羽地域の取組み→「出羽夢づくりプラン」策定ー「日々の生活は足りているが、足りないのは希望」との声を受けて→課題の解決と夢の実現に向けてー「ＬＬＣ出羽」法人設立
  地域通貨と人材バンク(農地保全・除雪作業・空き家対策)
- 町民の生活満足度調査ー８４%が満足(全国平均６４%)子育て支援充実・学校教育充実・高齢者障害者福祉充実・下水道普及率９１%・食べ物おいしい８５%
- 人口減少の右肩下がりを緩やかにする←９００自治体２０４５年には消える
  ２０１５年の推計値１１，０３１人⇔現実は、１１，４８７人
- 邑南町の人口動態ー社会動態Ｈ２５年＋２０人、Ｈ２６年＋１３人　(浜田マイナス３２６人)
- 攻めのＡ級グルメ構想と守りの日本一の子育て村、徹底した移住者ケア
- 町民に誇りを持ってもらうことが大事
- 今いる人も大切に「誰もが主役」・・・日本一の子育て村構想へ
  ０～１８歳人口の増加と定住→Ｈ３３年の目標１８００人(１００人増)
  邑南町は、過疎債をソフト事業に充当できるように陳情
  →特別枠分１億８千２百万円全額消化する必要がある
  →過疎ソフトで思い切った戦略をー関係課召集
  →保育料の無料化と「日本一の母子保健事業」ー中学生までの医療費無料

- 身近で安心な医療体制の構築→公立邑智病院ー医師１０人体制、２４時間緊急受付
  産婦人科、小児科機能の充実、専門医の常勤、ドクターヘリ
- 待機児童ゼロ、９ヶ所の保育所は統合しない
  →園児４人でも、園長、保育士、調理師の体制維持
- 過疎債を使って、一般財源の支出を振替え
- 日本一子育て村基金→１０年後にツケをまわさないために積み立てを行う
- 日本一の子育てむらを目指すにあたり、町民が一丸となって子育てに対する取り組みを進めて行くことが大事→地域で子育て未来を創る→みんなが笑顔で暮らせるまち
  行政無線で赤ちゃんの誕生をみんなに知らせる
- 地域おこし協力隊３１人→耕すシェフ、アグリ女子隊、地域クリエーター、アクサホ隊
- 数値目標設置ー定住人口２００人確保→２１３人、観光入込客数１００万人→９２万人、食と農の５名の起業家→２７人に
- 食の学校ー調理学校との連携
- 保育料２子目から無料、保育所完全給食、病児保育、延長保育
- 公民館の充実・地域学校・奨学金制度・笑顔キラキラ事業
- 定住支援コーディネーター(職員男女２名)→Ｕ｜ターン者ケア
- 「都市から地方へ」を継続・強化するー農林業の活性化が重要
- Ａ級の町をめざして→新たな就業スタイルの創造
- 今後の課題
  町内に食と農を中心とした起業支援センターを設立
  民間企業との協働によるさらなる邑南町のブランドカアップ
  一流の人材の育成→世のため、人のために役立つ人材の育成

新たな就業スタイルの創造

- １００年先でも持続可能な町へ→理想郷に向けて
- 町全体が一つの家族としてサポート

所感

邑南町は「和」のまちづくりを理念に掲げ「夢響き合う元気の郷づくり」を目指し推進してきた。合併後、子育て世代にやさしく住みよいまちづくりを目指す「日本一の子育て村構想」そして地元の生産者が育てた食材を使って「ここしか味わえない食や体験」をＡ級グルメと定義した「Ａ級グルメ立町」その２つの取組みで、定住促進に取組み大きな成果を上げている。　過疎地域自立活性化優良事例として総務大臣賞を受賞され、全国的に邑南町をアピールし、町民と協働のまちづくりを進めていて、町長の話の中に自信と誇りを感じた。浜田市と接し、神楽を通した交流や旧庄屋（隅屋）とのつながりがある。また、昨年７月３１日には食を通じた観光・文化交流協定が締結され、今後浜田市との連携がますます深まるものと思う。定住対策にむけ大変参考となる視察でした。